

彼方小だより

児童数配布

富田林市立彼方小学校

令和5年2月号

「鬼は～外！」

校長 藤井 貞彦

3学期がスタートして3週間、新型コロナウイルスに替わるようにインフルエンザが流行し始めました。本校でも学級閉鎖を実施しましたが、富田林市内でも感染が拡大しているようです。それに追い打ちをかけるような寒波の到来で、さすがの子どもたちも少し元気がありません。そんな子どもたちの登下校を見守り、温かい声かけをしてくださっている地域の皆様、本当

にありがとうございます。さて、ここ2年は中止していた「見守り隊の方々への感謝集会」ですが、今年は2月22日（水）の開催をめざして、準備を進めています。皆様への感謝の気持ちを伝えられればと考えています。寒さの厳しい時期ですが、ご参加いただけると幸いです。よろしくお願いいたします。

「鬼は～外！」「福は～内！」今年もやって来ましたこの季節。私も担任をしていた20数年前、「節分」に子どもたちと一緒に豆をまいて教室が大変なことになったことが思い出されます。豆のかけらが床のタイルのすき間に詰まってしまって、子どもたちと掃除をしながら「もう次はやめとこうな。」なんて毎年言っていました・・・

そもそも「節分」になぜ豆まきをするのでしょうか？（また始まった「なんでシリーズ」や・・・なんて言わずに、少しお付き合いを）

「節分」とはもともと季節の分かれ目という意味で「立春」「立夏」「立秋」「立冬」の前日を表していました。昔の暦では「立春」が1年のスタートだったので、その前日は今で言う「大晦日」なので年越しの日として意識されるようになり、江戸時代頃から「節分」と言えば「立春」の前日をさすようになったそうです。季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると言われていたので、平安時代から鬼をはらう儀式「追儺（ついな）」が行われており、それが現代の「豆まき」の元になりました。では、「豆まき」で追い払う鬼とはどんな鬼なのでしょうか？ 鬼と言っても色々で、「桃太郎」や「こぶとりじいさん」などの昔話

に出てくるもの、地獄の番人として描かれているもの、死者の魂など、実に様々です。そんな中で節分に豆まきをして追い払うのは、我々人間の心の中に住む鬼なのです。「怨み」や「憎しみ」の感情が生み出したもので目に見えません。つまり人を恨んだり、憎んだり、人のせいにしたりする自分自身の弱い心を豆をまいて追い払うのです。1年で最も寒いこの時期ですが、我々も「豆まき」で弱い心を追い出して、前向きに進んでいきたいと思えます。

これからも温かいご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。